



実施概要

事業所名	わかば保育園
報告書作成日	2014年3月5日 (評価に要した期間 5か月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

-
1. 自己評価 【実施期間：2013年10月1日～12月3日】
- ・常勤・非常勤に職員会議で趣旨説明し各個人に記入してもらった。
 - ・それを基に、クラスごとの会議に園長、主任、フリー保育士が入り、意見交換をしながら1項目ずつ確認・合意した。また、出てきた課題を抜き出し、全体でまとめた。
-
2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：2013年11月1日～11月15日】
- 配付：全園児の保護者（100家族）に対して、園から手渡しした。
回収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
-
3. 訪問実地調査 【実施日：2014年1月22日、1月24日】
- 第1日目
午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
午後：書類調査～事業者面接調査（園長、主任）
- 第2日目
午前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
午後：職員ヒアリング（クラスリーダー7名、看護師、栄養士、非常勤職員、フリー保育士）～事業者面接調査（園長、主任）
-
4. 利用者本人調査 【実施日：2014年1月22日、1月24日】
- 訪問日両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。
乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。
-

評価結果についての講評

(高く評価できる点、独自性のある点、今後期待される点、工夫改善点などについての総括)

【施設の概要】

わかば保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン舞岡駅から徒歩 8 分のところにあります。園までの道に田畑もあり、園の前は道路を隔てて舞岡ふるさと村虹の家があり、園の後ろは市民の森(舞岡ふるさとの森)が広がり、自然環境に恵まれた立地となっています。

運営法人は社会福祉法人「あらぐさ会」で、1965 年(昭和 40 年)に園の前身である「乳児の家わかば」を開設し、その後「わかば乳児共同保育所」に移行しました。1979 年(昭和 54 年)法人を設立し、現在地に「わかば保育園」を開園しました。現在は同一法人が「新杉田のびのび保育園」を姉妹園として運営しています。

園舎は 2 階建てで内部は天井が高く木の温もりがある施設となっています。1 階には 5 つの保育室と大小のホール、食堂、調理室、事務室、保健室等があります。2 階に 2 つの保育室や休憩室等があり、新園舎(別棟)に炉を切った和室や多目的ホールがあります。1 階のバルコニーは広い園庭に面しています。

定員は 120 名です。長時間保育、延長保育を実施していて、開園時間は平日は 7 時 15 分～19 時 15 分で、土曜日は 7 時 15 分～18 時 15 分です。

保育理念は 私たちは、憲法と児童福祉法に基づき、子どもたちがすこやかに育つ権利を守り、保護者と力を合わせて、より良い保育を進めていきます。 私たちは、子どもたちがのびのびと生活し、登園が待ち遠しくなるような魅力ある保育園づくりをめざします。 私たちは、お父さん、お母さんが安心して働けるように支援し、地域の子育てに貢献します。としていて、理念を基に保育目標を「健康な子ども」「心ゆたかな子ども」「仲間を大切にし、自分も大切に子ども」「仲間と一緒に考え、力を合わせる子ども」「自分のことは、自分でできる子ども」としています。

1. 高く評価できる点

子どもたちはのびのびと楽しく過ごしなが、メリハリのある生活を送っています

子どもたちは登園すると広い園庭で好きな遊びを十分しています。訪問日はクラス別に「泥だんご作り」をしているグループが 4 組あり、年下の子どもには保育士が固めるのを手伝ったり、年上の子どもは、硬く固めたピカピカの泥だんごを大切に持っていたりしました。保育士が回す長縄を跳んだり、複合遊具や滑り台、タイヤなどで遊んだりしている子どももいます。低年齢児クラスが部屋に入った後は、ドッジボールやサッカーをしている 5 歳児もいますが、男性保育士と一緒に遊び、子どもたちはボールの扱いが巧みです。さらに園外にも恵まれた自然環境が広がり、別の日に 5 歳児は市民の森に散歩に出かけました。自分たちで作った散歩マップを持って道を決め、山道を元気よく「さんぽ」を歌いながら歩き、斜面で転げ回って遊んだり、途中の沼のそばで地域の高齢者から「河童ともしぞう」の話の聞いたりしました。

室内での活動にも自由な発想が尊重されています。例えば、室内で空き箱などを使い鬼のお面を作っていた 4 歳児の子どもたちが、全く自由な発想で大きさも色も違う鬼を作るのを、保育士は、目をくり抜くなどむずかしいところだけ手助けして、見守っていました。朝の会も給食始まりの挨拶も一斉にはせず、子どもたちは待たされることはありません。

一方、集団活動でも、ホールで、0、1、2歳児がリトミック、3歳児が体育遊び、5歳児が和太鼓の練習等をしていましたが、保育士はどの年齢の子どもにも無理強いせず、子どもたちが楽しく力を出せるように声かけを工夫して支援しています。そのような集団活動では、年齢を重ねるにつれ子どもたちのやる気にあふれた成長が見られ、5歳児の和太鼓のばちさばきはリズムよく力強い音を響かせていました。

子どもたちは、元気よく遊んだ後は給食をよく食べ、園舎が静まりかえるほどぐっすり午睡をしています。四季を通して恵まれた環境の下、メリハリのある毎日を過ごしている子どもたちです。

職員は自発的に研さんを重ね、協力して「よりよい保育」をめざしています

職員はそれぞれの仕事へのモチベーションが高く、園外の研修にもよく出かけますが、園内で自主的な研修会として、書籍の読み合わせをしたり、水彩画や音楽技術を学ぶ学習会を開いたりしています。職員会議を始め各種会合は熱心に行われ、日常の保育についても、保育士同士話し合ったり主任や園長等に助言を求めたりすることもよく行われています。

栄養士は研究熱心で、子どもたちが苦手な食材をおいしく食べることができるよう、給食の献立を工夫したり、保育士とともに食育を進め、季節に合わせてよもぎ団子、お月見団子、クリスマスケーキ、まゆ玉作りなどのクッキングの計画をしたりして、子どもたちと実践しています。

看護師は調査時には、入職して間もないとのことでしたが、毎朝、保育室を回り、すべての子どもの連絡ノートを読み、子どもたちの健康状態をチェックし、今後は職員向け研修会等も行いたいとのことでした。

園長、主任を始めヒアリングをしたどの職員も自信を持ち、子どもや仕事が大好きな様子で、さらにより保育をしたいという思いが伝わってきました。

保護者との連絡を密にし、よいパートナーシップを持っています

園は、保護者との連携を大切にしている、連絡帳は0歳児から5歳児まで、すべての子どもが同じものを持ち、きめ細かい記入をしています。また、ホワイトボードや写真入りの壁新聞で日々の保育の様子を知らせています。さらに、「わかばっ子」(園だより)、「各クラスだより」、「給食室よりこんにちは」(給食だより)、「ほけんだより」など家庭と保育園をつなぐ手紙にも力を入れ、時には何ページにもなります。

また、保護者の組織する保護者会も活発に活動をしていて、園と保護者は協力し、「わかばまつり」などの行事を共催するなど、子どもたちの楽しい保育園生活のためのよいパートナーシップを持っています。

そのことは、保護者アンケートの「お子さんに関する重要な情報の連絡体制」や「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の項目が100%の満足度であることにも表れています。

2. 工夫・改善が望まれる点

職員の目標設定と達成度評価システムの策定が期待されます

職員は指導計画や日誌等の中で、日常の実践についての振り返りをしたり、形式的ではない話し合いを重視したりして、業務改善に取り組んでいます。

今後はさらに、個々の職員に期待される役割に必要な能力や知識を、どのように習得するか年間目標を年度当初に設定し、決められた書式に記入し、個人で振り返りを行うだけでなく、年度末には達成度を園長や主任とともに評価し、次年度の目標につなげていくようなシステムの策定が期待されます。

さらなる安全・防犯対策の進展が望まれます

園の周辺は里山が広がり、自然環境に恵まれています。しかし、通園路への土砂崩れなどの心配もあり、園は、最近新たな避難経路を作りました。また、門から玄関が見えず、長いスロープの先に園舎があります。現在、新たな不審者侵入防止策を検討していますが、アンケートでも不安を感じている保護者もやや多いので、より一層の安全・防犯対策に取り組むことが望まれます。